



Check! C棟

機能強化棟には役立つ楽しい隠れた機能がたくさんありますのでご紹介します。

B1 エスカレーター

病院入口に向かうC棟のエスカレーターは両手でしっかりとベルトをつかんでご利用いただけるように意図的に幅を狭くして、追い越しができないように設計しました。エスカレーターのスピードもゆっくりに設定しております。ご理解ください。



階段の装飾

「世界のこんにちは」

C棟地下1階階段には、大学職員のアイデアで大学間および学部間等の国際交流協定を締結中の33か国の26言語と日本語、計27言語の「こんにちは」の装飾があり、新しい玄関として国内外からの人々を迎えています。



1F ホール

A棟病院入口と同じフロアにあるホールには、自由にご利用いただけるソファ、テーブル、イスが設置されており、地下から地上2階まで吹き抜ける広々と心地良い空間です。新しい東京医科歯科大学の待ち合わせ場所としてご利用ください。



授乳室

C棟のホールには、広々とした授乳室があり、ミルクの調合ができるようなシンクやゆっくりと授乳ができるソファ、オムツ交換台も完備しています。赤ちゃんをお連れの際にはご利用ください。



非常用医療等の設備

C棟の壁面には災害時等に使用できる医療ガスを供給する設備や非常用コンセントがあります。これは災害やテロなどが発生した際にC棟をトリアージ場所として医療の提供を可能にすることを目的として設置しています。



RF 屋上のソーラーシステムとグリーンゾーン

C棟屋上には、環境に配慮した設備が2つあります。1つはソーラーパネルが設置されており、太陽光発電をしております。もう1つはグリーンスペースを設けて芝生を育てています。



Future! C棟

近日オープン予定の施設やサービスをご紹介します。

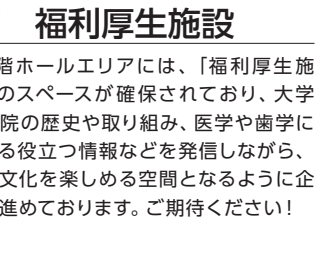
メトロと直結

2023年10月1日時点ではまだ工事中ですが、C棟は地下2階から東京メトロ丸ノ内線・御茶ノ水駅に地下道で直結つながり、さらに便利で快適な連絡通路ができる予定です。しばらくは工事中のためご迷惑をおかけしますが完成までどうぞご協力ください。



1F 福利厚生施設

1階ホールエリアには、「福利厚生施設」のスペースが確保されており、大学や病院の歴史や取り組み、医学や歯学に関する役立つ情報などを発信しながら、食と文化を楽しむ空間となるように企画を進めております。ご期待ください!



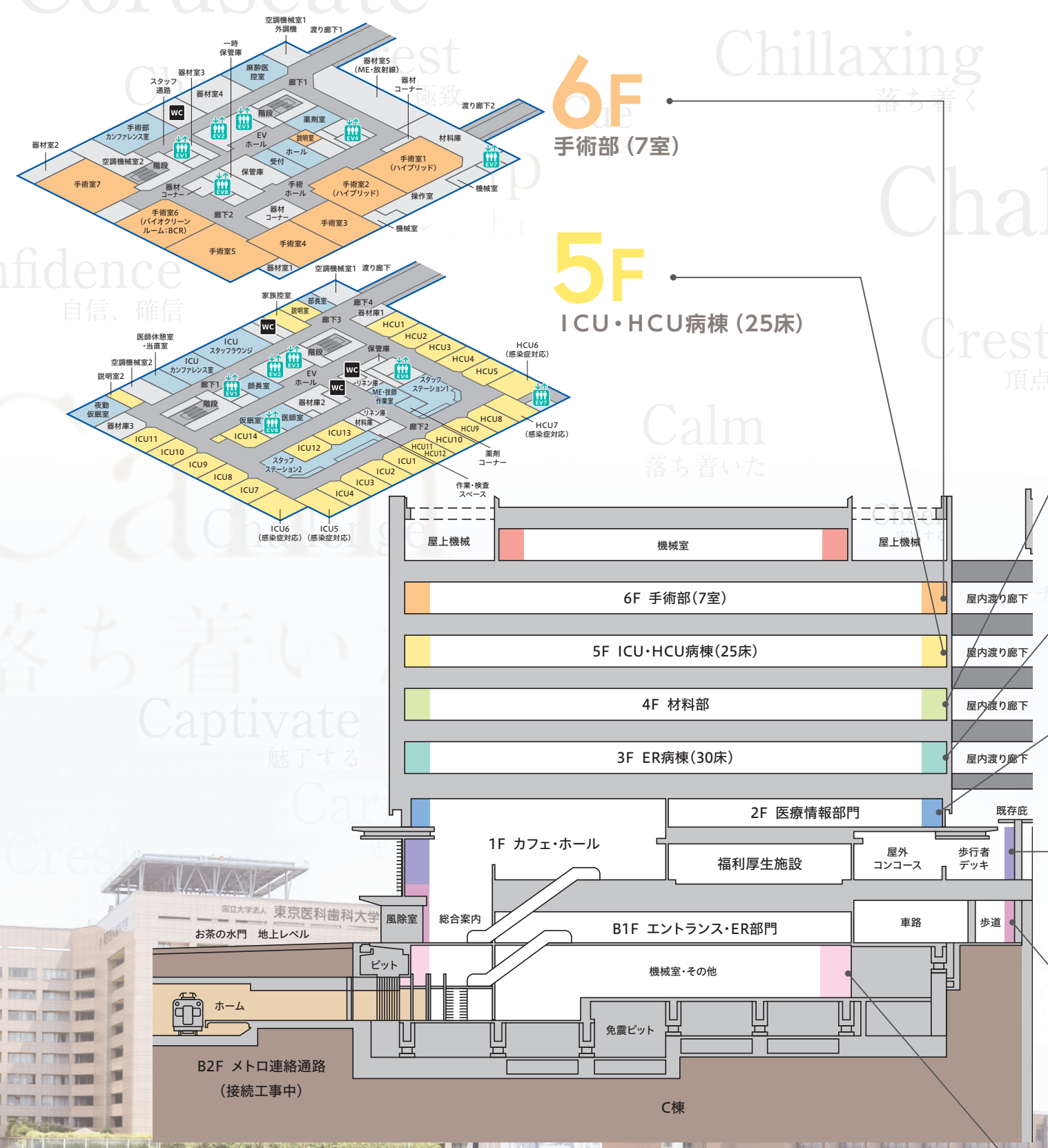
C棟 [機能強化棟]

START

2023・10・1

世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し
人々の幸福に貢献します

東京医科歯科大学病院
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY HOSPITAL



最高水準の医療で人々の幸福に貢献し、愛され続けるC棟

C棟は病院の再整備の一環で、ERセンター、手術室、集中治療室(ICU)、医療器材、医療情報システムなど、病院の機能を強化するための棟として構想されました。その時、私は医療担当理事として、①災害時の拠点となること、②本学の新たな顔・玄関となることを原則に、検討会を作って設計を進めてきました。その成果が実って、JR御茶ノ水駅から徒歩から見えるC棟は空や木々を映して輝く、新しい御茶ノ水・湯島エリアのモニュメントとなりました。

C棟は地下2階、地上7階建てで、延べ床面積は約15,000㎡です。地下2階に強力な免震装置を設置し、巨大地震発生時にも医療を継続できるように設計されています。地下1階のERセンター、3階のER病棟、そして従来のERセンターと合わせて都内最大級の収容力を誇ります。4階の材料部では、医療器材の洗浄、滅菌管理等を行い、有事の際にも十分な医療品を提供できるように備蓄・管理を行っています。5階のICU-HCU病棟には、25床の完全個室(うち4室が感染症対応)があり、6階の手術室には手術室が7室(うち、ハイブリッド手術室が2室、バイオフィーム手術室が1室)、7階屋上には、太陽光発電のソーラーパネルやグリーンスペースが設けられています。

C棟のCはCommunication(交流)のC、またERセンター、手術室、集中治療室(ICU)が集まるので、Critical Care(危機医療)を表していると言えます。さらにChangeやChallengeのCでもあります。C棟は東京医科歯科大学として建てる最後の建物になりますが、社会に開かれた新大学(東京科学大学)になっても、F&F(Free & Flat, 自由でフラット)に集える場として愛され続け、世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供することで人々の幸福に貢献し続けていくと確信しております。

東京医科歯科大学学長
田中 雄二郎

一体化、コロナ対応による信頼構築で最高水準のトータル・ヘルスケアを目標に



東京医科歯科大学
理事・副学長(医療担当)
内田 信一

医科A棟と歯科D棟を結ぶC棟は急性期医療提供機能の強化・充実を目的として構想され、ERセンター、手術室、ICU-HCU、材料部、医療情報部などが集まり病院の機能を強化します。さらに免震構造、非常用医療機器・発電機が施されており、災害時に病院を守る機能も堅持します。医科と歯科の一体化やコロナ対応によって培ってきた信頼関係、C棟の完成によって、世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供できるよう邁進してまいります。

口腔領域の手術もさらに安全で安心な体制が整備



東京医科歯科大学病院
首席副病院長
新田 浩

2021年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院は組織的に一体化しましたが、建物が異なるため、診療レベルでの一体化はまだ途中と見えます。歯系を統括する首席副病院長として、C棟完成によって手術室や病棟を含めた一体化が進み、口腔領域の手術もさらに安全で安心な体制が整備されることは大変魅力的です。高度な先進医療がさらに実践しやすくなり、これまで以上に患者さんの健康に寄り添った医療を提供できるようになりました。

6F 高度先進医療を支える手術室 ハイブリッド手術室 バイオフィーム手術室など全7室

＜＜ 循環器内科

C棟の完成により、今まで以上に患者さんに幅の広い治療の選択肢を提示し、より短い待機期間で治療を提供できます。手術台と血管撮影装置(X線撮影装置)を組み合わせたハイブリッド手術室を2室新設したことにより、弁膜症に対するカテーテル治療を開始すると共に、高難度不整脈治療に特化した手術を円滑に遂行できます。従来の血管造影室に比べて広く、デバイス治療をより清潔な環境で施行可能になるほか、全身麻酔下でのカテーテル治療が可能になり、麻酔科・心臓血管外科と協力して、より高度な治療が可能になります。(循環器内科教授 笹野 哲郎)

＜＜ 大腸・肛門外科

手術室の規模拡大により、手術待機期間短縮と全ての大腸がんロボット手術が行える環境が整ったことは大変喜ばしいことです。最新の手術支援ロボットを用いた大腸がんを始めとする消化管がん手術と、新規術式の開発に努め、国内のみならず世界へ我々の手術手技を普及させ、世界のロボット手術を牽引していきます。(大腸・肛門外科教授 絹笠 祐介)

＜＜ 心臓血管外科

C棟の手術室は広さが確保され、最新の機器が揃っており、最高の手術が可能となります。最新の医療ロボットも備えられています。ロボット心臓手術を成功させるためには医療者間のコミュニケーションが重要です。広くて機能的な手術室では、麻酔器や人工心肺装置、手術ロボットなどを最良の形で配置し、コミュニケーションが取りやすく

＜＜ 手術部

近年、手術室においては、手術ロボットをはじめ、大型医療機器の使用が増え、関わるスタッフの数も多くなるため、十分なスペースを確保し、医療材料の供給や迅速で正

2F 医療情報部門

高度で先進的な医療においては、電子カルテ、オーダリング、検査結果、画像、各種文書といった多くの診療情報が扱われています。このためC棟2階にある医療情報部では、情報通信技術(ICT)を最大限に活用したシステムの運用を遂行することで、最新、最善の医療をバックヤードとして最大限サポートしています。(医療情報部 部長 藍 真澄)



スムーズな手術を行うことができるようになっています。2つのハイブリッド室ではカテーテル治療と外科治療を組み合わせたTAVIやImpella装着など、循環器内科と心臓血管外科が協力して行う手術や大動脈ステント治療などが可能となります。(心臓血管外科教授 藤田 知之)

確な薬剤の準備・調合などにおいても、効率的な運用ができるような設計を心掛けた。(手術部 部長 内田 篤治郎)



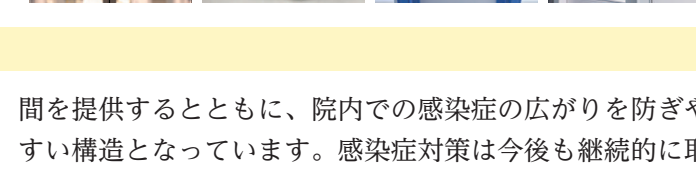
5F ICU(集中治療室) HCU(高度集中治療室) 全25床(完全個室)

＜＜ 集中治療部

C棟のICU-HCUは、全室個室、外光が差し込む、感染対策用病室がある、1つの場所から医療者が2つの病床を見渡せる、様々な処置時の動線を人間工学的に分析するなど、多数のスタッフが頭を絞って作り上げました。術後患者や重症患者の診療に当たるため、什器類の選定や一部機材の取り付け方法の検討、新しいコンセプトの病室内収納式トイレ設置、備品類の設置場所の検討、運営方法などの決定を行いました。コロナ禍の最前線で闘ってきた院内ICU-HCUが病床数も20%以上増えて、新しくなりました。世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供すべく、スタッフ一丸となって、引き続き頑張っています。(集中治療部主任教授 若林 健二)

＜＜ 感染制御部

救急医療、集中医療の場では、コロナのみならず様々な感染症が発生し、ときには患者さんの予後に影響することがあります。C棟のICU-HCUではフロアの角に配置した病室は陰圧を保つことができる構造としており、空気感染する感染症を発症した患者さんにも安全に医療を提供できます。またすべて個室とすることで患者さんに快適な空



間を提供するとともに、院内での感染症の広がりを防ぎやすい構造となっています。感染症対策は今後も継続的に取り組む大きな課題です。当院は感染対策に着実に取り組むことによって安全な医療を提供していきます。(感染制御部 部長 具 芳明)

4F 手術や処置で使用する器材の洗浄、消毒、滅菌を行い安全で質の高い医療機器提供する材料部

材料部は患者さんと直接は接しませんが、診療に用いる様々な器材を最新の知識と技術で清潔にして最良の状態です。特に滅菌は目に見えない微生物との戦いではクリアしなければならぬ基準がたくさんありますが、当院はより高いレベルを維持しながら器材を供給できるように努めています。(材料部 部長 久保田 英雄)



3&B1F 救命救急センター(手術室・重症処置室など全10室) ER-ICU(救命救急集中治療室) ER-HCU(救命救急高度集中治療室)など全30床



＜＜ 特徴・メリット

「ハイブリッドER」は、1. 救急初期初療、2. 緊急CT、3. 緊急血管造影、4. 緊急手術の4つの機能を1つの部屋で包括できるシステムです。C棟地下1階にあるERセンター内のハイブリッドERの特色は「2ルームシステム」。そのメリットは、CTの大きな輪(ガントリ)がハイブリッドERルームと隣の部屋で行き来をすることが可能で、救急室の効率の良い使用ができます。ER集中治療室は、全室が個室でシーリングペンダント天井からのアームを通じ、電源など供給することで、ベッドまわりの治療空間を広く自由に確保することができるようになっています。

＜＜ 今後の取り組み・抱負

C棟に設置された最新鋭の医療機器や十分に配慮された感染予防システムなどをフル活用することで、重症外傷、ECMOを用いた心肺蘇生、出血性疾患(消化管出血など)、虚血性疾患(心筋梗塞、塞栓性脳梗塞)に対して今まで以上に速やかな対応が可能となります。一刻を争う救急患者さんに対して迅速に診断と治療を行い、高度な救急医療を提供するとともに、東京医科歯科大学病院が誇るチーム医療の力を發揮して、さらに予後を良くする救急医療を展開したいと思っています。(救命救急センター センター長 森下 幸治)

B2F 免震構造

地震発生時に揺れを吸収し、揺れを建物に伝わらないようにしてダメージを少なくする免震装置がC棟地下2階から下に設置されています。地震発生時にも建物を安定して支えたり、揺れの伝わりを少なくしたり、地震後に建物を元に戻す機能などを持つ「積層ゴムアイソレーター」という装置と、地震や風による建物の揺れを抑える「免震ダンパー」という装置がC棟を守っています。

